



コタンメール Kotanmail No.67

北海道白老郡白老町若草町 2-3-4
財団法人 アイヌ民族博物館
2013年2月20日発行
<http://www.ainu-museum.or.jp>

アイヌミュージアムフェア IN 広島

博物館では、「アイヌミュージアムフェア」という普及啓発事業を行っています。この事業は白老町外で開催され、2010年の横浜、11年の大阪、12年の仙台に続き、今年広島にて4回目の実施となりました。アイヌミュージアムフェアは、来場していただいた方に体験学習、学芸員講話、古式舞踊を体感していただくことを目的としています。

今回私たちが訪れたのは、広島市。2月2日には広島市中心部の地下街にて翌日のPRイベントを行い、エカシ(長老)の話、アイヌ語地名クイズや、古式舞踊のステージを見学していただいた方たちに楽しんでいただきました。計3回行われたPRイベントでは、多くの人びとがムックリの音色や歌声に足をとめて聞き入り、イベントが終わった後に、職員に質問する様子が印象的でした。

翌3日には、広島市県民文化センターで開催されました。本番当日、600名を収容できる会場をみてびっくり。どれだけのお客様にきていただけるか、ドキドキしながら準備をしたことを覚えています。会場ではアイヌ文化を紹介するパネル展示や、民族衣装の展示、ムックリの演奏体験、学芸員講話、古式舞踊を紹介しました。

開場時間前には、すでにお客さまが並んでいて、びっくり。前日のPRイベントにご家族や友人連れで来場していた方も多く見受けられました。当日は満員、学芸員講話を行っている際には、通路にお座りになっている方たちもちらほら…。

カムイノミやイヨハイオチシ(即興歌)、ムックリ、鶴の舞、弓の舞など、盛りだくさんの演目を披露しました。来場していただいた方からは、「日本にアイヌ文化があるのは知らなかった」「ぜひ北海道に行きたい」「古式舞踊が素晴らしかった」というお声をいただきました。

また、私個人が印象的だったできごとがあります。学芸員講話の質疑応答のときに、アイヌの死生観や差別問題などの、かなり踏み込んだ質問をいただいたことです。今まで博物館などでお話をしていた時には、あまりなかった質問でした。質疑応答を通じ、広島では人権についての意識が高い地域だということを感じさせていただきました。

最後に、移動博物館事業に携わっていただいた、たくさんの方たちにイヤイライケレ(ありがとうございます)。この事業を通じて勉強したことを、日常の業務に生かしていきたいと思えます。
(中野巴絵)



地下街でのPRイベントのようす(2月2日)



ムックリの演奏体験のようす(2月2日 PRイベント)



アイヌミュージアムフェア会場(2月3日)



広島道産子会のみなさんと(2月3日)

受験シーズンですが…

アイヌの芸能はどうして芸術大学で学べないの？

アイヌの歌や踊りを大学で学ぶ、というのはちょっと違和感を感じる方も多いかも知れません。そんな大層なものなの？うちの婆ちゃんだって歌ってたよ、と。確かに昔は歌えて当然、人が集まれば歌い、歌えば踊る、誰に習う必要もなかったでしょう。それで受け継がれてもきました。でも、今では全く事情が違ってきています。

アイヌの歌は楽譜にすればすごく単純に見えます。でも楽譜にならない昔ながらの味わいを表現できる人はもう本当に限られていますし、習う側もアイヌの歌を聞いて育った世代ではありませんから、真似しようにも何をどうしていいかわかりません。その結果、メロディラインはなぞれても、だんだん民族色は薄れ、地域によってはほぼ消えてしまったと言っても過言ではないように思います。

琉球芸能はちゃんと芸術大学があるのに…

ところで、みなさんは沖縄の伝統芸能の後継者を育てる国公立機関があるのをご存知でしょうか。沖縄県立芸術大学の琉球芸能専攻（定員 15 人）がそれで、琉球古典音楽や琉球舞踊の専門家を養成しています。また、琉球芸能を専門とする「国立劇場おきなわ」では、公演のほか 3 年間の組踊研修（無料）などの後継者育成を行っています。

和人（日本の多数民族）の伝統芸能についてはご存知の方も多いかも知れません。国立の東京芸術大学音楽学部邦楽科（定員 25 人）では、三味線・琴や長唄、日本舞踊、能楽、雅楽等の専門家を養成しており、大学以外では国立劇場、国立演芸場、国立能楽堂、国立文楽劇場などの国立施設があります。

「クマの木彫りとピリカの歌」

ひるがえってアイヌ芸能はどうでしょうか。1984 年、国の重要無形民俗文化財に指定され、各地に保存会が組織されました。でもその後国が行った施策で目立ったものはなく、実際は白老、阿寒、旭川などの観光地が重要な役割を果たしました。観光客も喜び、アイヌも潤い、芸能や工芸も盛んになったわけですから、それ自体は大いに評価されるべきことなのですが、「北海道観光バブル」が終わってみれば、沖縄のような公立大学や国立劇場などの将来につながる人材育成・文化伝承のシステム整備は全くなされていませんでした。正直なところ、今までアイヌの歌や踊り、工芸を大学で学ぶ学問だとは当事者を含めだれも本気で考えて来なかったのではないのでしょうか。

「だれも」は言い過ぎですね。東京芸術大学教授で民族音楽学者の故小泉文夫氏の記念資料室には貴重なアイヌ音楽資料が多く残されていますし、アイヌ音楽の現役研究者というのも 2 人は知っています。世界中で 2 人ですから大変貴重な人材だと思うのですが、あまり厚遇されているという話も聞きません。

現実性はあるの？

アイヌが声をあげれば可能性は十分あるのではないのでしょうか。大学の 신설は現実的ではありませんが、既存の大学に定員 10 名程度のコースや専攻を併設することに大きな問題があるとは思えません。東京芸術大学や沖縄県立芸

術大学も、西洋音楽や美術学部など複数の学部や専攻の一部として設置されていますし、併設のメリットもあります。

道内を見れば、北海道教育大学岩見沢校には芸術課程があり、音楽、美術、芸術文化の 3 コースがあります。また、すでにアイヌ語や民族音楽・民族舞踊の授業が行われていたり、この 2 月にもアイヌ民話に基づく創作オペレッタを上演するなど活動の素地があります。

ここにアイヌ芸術コースを新設し、アイヌ音楽やアイヌ工芸のしかるべき研究者を教官として配置し、専攻科目を追加すれば大きな改編は不要です。教養科目や基礎科目、選択科目群など既存のカリキュラムの 7 割程度はそのまま使えるでしょう。

理念的に考えても、北海道にある国立大学としての社会的・歴史的使命を考えればあって当然で、今の時代に誰も反対できないでしょう。無理を言っているわけではなく、道理はこちら側にあります。通らない話ではないと思います。が、どうでしょう。

ウチの子に国立大学はハードルが高いんじゃない？

これまで大学進学をあきらめていたアイヌ子弟にも大いにチャンスはあります。一定の条件を満たせば学費の減免が受けられますから、多くの家庭では負担は私立高校へ行くのと大差ありませんし、月額 4300 円で個室の学生寮もあります。奨学金制度もあります。

入試が難しいと言っても同じアイヌ芸術専攻の志願者同士で競うわけですし、岩見沢校は基本的に実技系の大学ですからセンター試験の点数だけで決まるわけではありません。現在芸術文化コースでやっているような簡単な実技試験（歌、演奏、踊りなどのパフォーマンス等、内容自由）や作品審査等を行うと考えれば、経験のあるアイヌ子弟などはかえって有利になるでしょう。最近の入試は AO、推薦、地域選抜、社会人選抜、何でもあります。入学前も入学後も、アイヌ芸術専攻のレベルが高くなるか低くなるかは本人たちの努力次第です。もう社会に出ているけどだったら今からでも挑戦したい、という人も出てくるかもしれません。

学んでどうするの？

昔の伝統的な技法を身につけ伝承することも大切ですが、それだけがアイヌ芸術ではありません。65 号で紹介したアイヌ影絵も、OKI やマレウレウの活動もアイヌ芸術です。素材がアイヌ、手法がアイヌ、テーマがアイヌ、いろんなアイヌ芸術があり得るでしょう。また、他民族との比較研究や理論化などに基づいて先住民族芸術の研究者の道に進む人も必要ですし、大学発の人材やアイデアがアイヌ文化を活かした産業振興・地域振興につながればすばらしいのではないのでしょうか。

また、古い録音や映像などのデジタル複製を集め、ライブラリ化する必要があります。今は一部が道立アイヌ民族文化研究センターなどの研究機関や博物館に集められ、調査研究が進められています。しかし、例えばアイヌの歌を楽譜化するような作業は、一般の研究機関や博物館ではできる人は限られますが、音楽専攻生には難しいことではありませんし、大変よい勉強になります。

卒業生がアイヌ文化伝承活動の後継者や研究者として加わるようになれば、コタンがかつての活気を取り戻すことも夢ではないでしょう。アイヌの側がまず声を出すことが実現の道だと思いますがいかがでしょうか。（安田益穂）